

第10回SICFグランプリ 酒井 翠氏に決定！ 2009年10月に個展開催



酒井 翠 第10回SICF出品作品「えにつき 08/01~08/31」 撮影: 市川勝弘

スパイラルが主催する第10回SICF(スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル)のグランプリ受賞者が決定しました。

SICFは、スパイラルが次代を担う若手クリエイターを発掘する目的で2000年にスタートした公募展形式のイベントです。5月2日(土)~5日(火)にかけてスパイラルホールで開催し、自由な感性で質の高い創作活動を行うクリエイター100組にプレゼンテーションの場を提供しました。

色とりどりのクレヨンで表現したえにつき、ズレていくコンセプト。**不条理演劇の旗手サミュエル・ベケットの世界観—**

第10回SICFでグランプリに輝いたのは、酒井翠氏です。酒井氏は、8月の絵日記を、絵日記そのものではなく、それを描くために使用したクレヨンで表現したインスタレーション「えにつき 08/01~08/31」を発表しました。

白い壁に8月のカレンダーの形に並べられたクレヨンの箱。その中には、一日ごとに絵日記を描いた残りのクレヨンが並んでいます。ある日は一色だけ、またある日は全ての色が満遍なく減っているクレヨン……。それらは、絵日記に何が描かれたのか、どんな一日だったのかを鑑賞者に想像させます。ところが、日を追うごとに箱に並ぶクレヨンの様子が変化します。恣意的に折られ、順番を入れ替えられ、表面にイラストが描かれたクレヨン。それは作者の関心が「絵日記を描く」という行為から、「クレヨンで語ること」や「クレヨン自体」へと逸れていく様子を鮮やかに映し出します。

本作品では「本来のコンセプトが、行為を通じて次第に変容していく」さまが表現されています。こうしたコンセプトは、酒井氏が大学時代に研究していた不条理演劇を代表するアイルランドの劇作家サミュエル・ベケットの世界観に強く影響を受けたといえます。審査では、色とりどりのクレヨンがリズムカルに配置された作品の美しさに加え、それを支えるコンセプト、メッセージの強さが高く評価されました。なお、酒井氏は今年10月にスパイラルで個展を開催する予定です。

掲載や取材に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

スパイラル/株式会社ワコールアートセンター 広報部 加藤、清水、四元

TEL 03-3498-5605 FAX 03-3498-7848 〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23

E-mail press@spiral.co.jp WEB www.spiral.co.jp SICF公式HP <http://www.spiral.co.jp/sicf/>



グランプリ受賞者略歴
酒井 翠(さかい みどり)

早稲田大学第一文学部演劇映像専修卒業。
ジャンルに囚われず、さまざまな形態で活動を行う。
主な展覧会:「fly! bus! fly!」(06/六本木SUPER DELUXE)、
「横浜トリエンナーレ2005」
(05/山下埠頭・boat people associationとのコラボレーション)、
「Reading room 展」(05/BankART Studio NYK)、等。

◆ 作品について ◆

「えにっきを描いた残りのクレヨンから、何を描いたのか、どんな1日だったかを想像していただく」というのが作品の表層的なコンセプトです。ただ日にちが進んでいくうちに、「えにっき＝成果物／クレヨン＝残り物」だったはずが、「クレヨン＝成果物」に、明らかにコンセプトが変わってしまう。残されるクレヨンの方を目的としたえにっきを描き、さらにはえにっきを描かずにクレヨンをボキボキ折って形をつくるようになってしまう。そこからコンセプトはさらに変わっていき、クレヨンの上に絵を描いてみたり、クレヨンの箱の中で一人遊びをしてみたり、連続するクレヨンの箱を通して物語を語ってみたり、最終的にはクレヨンの実存について問いてみたりしてしまう。

つまり、コンセプチュアルな作品なのにコンセプトがどんどんずれていってしまう、最初に頭が決めたコンセプトが、作品をつくるという身体的な運動の暴走の中でどんどんすり替わっていってしまう、というのが本当のコンセプトです。

さらに言うと、見ている方も、最初は「えにっきを描いた残りのクレヨンなんだな」と頭で予め理解して見ているけれど、作品のリズムや流れにのって、ひとしきり鑑賞したあとで、「・・・あれ？コンセプトってなんなんだっけ？えにっきなんだっけ？」と、自分の中の理論的な部分を置いてきぼりにしてしまっている状況にはたと気づいていただけたら、と思い制作した作品です。

こうした「ズレ」に興味があるのですが、これは私が大学でサミュエル・ベケットの研究をしていたことが少なからず影響していると思います。ベケットは筋の一貫性や合理的なプロットを排除した、反近代劇的作品を多数発表しており、それは私の作品にも通じるところがあるのかもしれませんが。直接的に彼をモチーフにして作品制作を行っているわけでは無いのですが、私のインスピレーションの源として「ベケット的なもの」はこれからも作品には反映されていくのだと思います。

ただ、実はこの作品を読み解く視点は他にもあります。「コンセプトがズれていくコンセプト」からもズれるように、見ていただく方はただただ自由に作品と向き合っていたいただければ、作者としてはこの上なく幸いに思います。

作品細部



クレヨンは、日を追うごとに表面にイラストや模様が描かれたり、順番を並べ替えられたりしていく

第10回 SICF その他の受賞者一覧

準グランプリ: 栗 真由美

準グランプリ: 小桧山聡子

オーディエンス賞: YUSE

審査委員賞 浅井隆賞: 新垣美奈

査委員賞 佐藤尊彦賞: fujimoto tetsuya

審査委員賞 南條史生賞: 石田寛子

審査委員賞 松永英伸賞: 藤本雄策

審査委員賞 ひびのこづえ賞: 関 智美

スパイラル奨励賞: モモルディカ

スパイラル奨励賞: 高澤そよか